

- 問1 北海道の経済や文化の変遷について、かつての商業都市である小樽と、自然保護が進む釧路湿原の背景を説明した文として、正しいものを次のうちから選びなさい。 (2021年 鳥取県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 釧路湿原は、寒冷な気候を活かした稲作の適地として開発が進んだが、現在は冷害に強い品種改良の実験場となっている。 | 2. 小樽は、かつて石炭の積み出しやニシン漁の拠点として発展し、現在はその歴史的な倉庫群が観光資源として活用されている。 | 3. 釧路湿原は、農地開発や工業用地としての利用を目的として大規模な埋め立てが行われた結果、世界文化遺産に登録された。 | 4. 小樽は、江戸時代に東廻り航路の終着点として栄えたため、現在も大規模な製鉄所が稼働する重化学工業都市となっている。 |
|--|--|---|---|
- 問2 北海道の道庁所在地である札幌周辺の地理的特徴と、地名の由来について述べた文として、最も適切なものはどれか。 (2021年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 十勝川の流域に広がる十勝平野に位置し、地名は江戸時代の松前藩の役職名に由来する。 | 2. 大規模な火山灰地が広がる根釧台地に位置し、地名は明治時代に移り住んだ屯田兵の出身地に由来する。 | 3. 石狩川や豊平川の堆積作用によって形成された石狩平野に位置し、地名は先住民族であるアイヌの言葉に由来する。 | 4. 広大な泥炭地が広がる石狩平野の沿岸部に位置し、地名は本州から移り住んだ開拓使の言葉に由来する。 |
|---|--|---|--|
- 問3 北海道の知床や鹿児島県の屋久島など、貴重な自然環境が残る地域では、観察用のデッキや木道を設置する取り組みが行われています。観光客に地域の自然を体験してもらう一方で、踏みつけなどによって自然が破壊されることを防ぎ、環境の保全と観光を両立させるこのような仕組みを何と呼びますか。 (2022年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------|------------|------------|----------------|
| 1. グリーンツーリズム | 2. エコツーリズム | 3. マスツーリズム | 4. バリアフリーツーリズム |
|--------------|------------|------------|----------------|
- 問4 北海道の知床半島のすぐ東側に位置し、択捉島、色丹島、歯舞群島とともに、日本固有の領土でありながら現在はロシアによって法的根拠なく占拠されている島を何というか。 (2019年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|---------|--------|--------|
| 1. 択捉島 | 2. 歯舞群島 | 3. 色丹島 | 4. 国後島 |
|--------|---------|--------|--------|
- 問5 北海道では、小麦や小豆などの畑作物の生産割合が全国の過半数を超える圧倒的なシェアを占めています。このような高い生産力を支えている北海道の農業の特徴として、最も適切な説明はどれですか。 (2025年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 消費地に近い利点を活かし、ピニールハウスなどの施設を用いて出荷時期を早める促成栽培が行われている点 | 2. 1戸あたりの耕地面積が非常に広く、大型機械を活用した大規模農業が行われている点 | 3. 山がちな地形を活かした段々畑が整備され、果樹栽培と稲作を組み合わせた複合経営が行われている点 | 4. 夏でも温暖な気候を利用して、同じ土地で年に2回作物を作る二期作が行われている点 |
|--|--|---|--|
- 問6 東京都から各道県への旅客輸送に関する統計において、ある道県は鉄道の利用者が約19万人であるのに対し、航空機の利用者が約627万人と突出して多くなっています。この統計が示す道県の名称と、航空機の利用割合が極めて高い理由の組み合わせとして最も適切なものを次から選びなさい。 (2022年 栃木県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 道県名は北海道であり、青函トンネルが貨物専用となっており、旅客が鉄道で海を渡ることができないから。 | 2. 道県名は新潟県であり、山岳地帯を通過する鉄道よりも、直線的に移動できる航空機の方が効率が良いから。 | 3. 道県名は大阪府であり、ビジネス客の利便性を高めるために航空路線の便数が鉄道の運行本数を上回っているから | 4. 道県名は北海道であり、東京都からの移動距離が長い為、所要時間の短い航空機が優先的に選択されているから。 |
|--|--|--|--|
- 問7 北海道の製造品出荷額等の内訳について、全国平均では約11.6パーセントにとどまる一方で、北海道では全体の約33.1パーセントと3割以上を占め、最も大きな割合となっている工業部門は何ですか。 (2018年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|----------|
| 1. 化学工業 | 2. 機械工業 | 3. 金属工業 | 4. 食料品工業 |
|---------|---------|---------|----------|
- 問8 北海道の石狩平野などでは、かつて枯れた植物が十分に分解されずに積み重なった、水分が多く農業に不向きな「泥炭地」が広がっていました。この土地で稲作などを可能にするため、他の場所から質の異なる土を運び入れて土壌の性質を改善する土地改良の手法を何といいますか。 (2022年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|-----------|
| 1. 客土 | 2. 輪作 | 3. 干拓 | 4. 段々畑の造成 |
|-------|-------|-------|-----------|
- 問9 1960年から2010年までの50年間で、札幌市の人口は約62万人から約191万人へと3倍以上に急増しました。北海道全体の人口が1950年の約430万人から2010年の約551万人へと緩やかな推移を見せる中で、このような札幌市の人口動態が北海道全体に与えている状況として最も適切なものはどれですか。 (2016年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 北海道全体の人口が減少局面に入ったことで、札幌市の人口も2010年に向けて激減した。 | 2. 道内人口に占める札幌市の割合が一貫して上昇し、札幌市への一極集中が進んでいる。 | 3. 道内の各都市が札幌市と同様のペースで成長したため、札幌市の人口占有率は低下している。 | 4. 札幌市の人口増加率よりも北海道全体の人口増加率の方が高く、人口の分散が起きている。 |
|---|--|---|--|
- 問10 北海道の釧路周辺における夏の気候について、統計資料では「8月の平均気温が約18度と低く、日照時間も短い」という特徴が示されることがあります。このような気候になる理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2025年 群馬県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 寒流である千島海流（親潮）によって冷やされた空気が濃霧となり、日射を遮るため。 | 2. オホーツク海高気圧から吹き出す冷たい風「やませ」が、日本海側に低温をもたらすため。 | 3. 冬の季節風が山脈を越えて吹き下ろし、フェーン現象が発生して乾燥するため。 | 4. 暖流である日本海流（黒潮）が湿った空気を運び、大量の降雨をもたらすため。 |
|--|--|---|---|
- 問11 都道府県別にみた観光地の特徴に関する統計において、自然の観光地数が90か所以上、レクリエーション地数が250か所以上と際立って多い一方で、国指定の重要文化財（建造物）の数は30か所未満にとどまるという特徴を持つ都道府県はどこか、次の中から選びなさい。 (2015年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 東京都 | 2. 奈良県 | 3. 北海道 | 4. 京都府 |
|--------|--------|--------|--------|
- 問12 日本の都道府県別の統計において、空港の数が14か所と全国で最も多く、新幹線の駅の数が2か所設置されている都道府県があります。この地域において、これほど多くの空港が設置されている地理的な理由として最も適切なものはどれですか。 (2021年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 険しい山脈が中央部を走っているため鉄道や道路の建設が難しく、空路が唯一の移動手段となっているため | 2. 日本の国土の約2割を占める広大な面積を持ち、道内の主要都市間を効率的に結ぶ交通手段が必要であるため | 3. 世界遺産の登録数が国内で最も多く、海外からの観光客を各地の観光地へ直接送客する必要があるため | 4. 四方を海に囲まれた島国のような環境であり、本州との往来には航空機を利用する以外の方法がないため |
|---|--|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 小樽は、かつて石炭の積み出しやニシン漁の拠点として発展し、現在はその歴史的な倉庫群が観光資源として活用されている。	小樽は明治から大正にかけて、北海道開拓の玄関口やニシン漁、石炭の積み出し港として急速に発展し、「北のウォール街」と呼ばれるほどの商業都市となりました。現在は当時の石造り倉庫や運河が保存され、重要な観光資産となっています。釧路湿原は開発から免れた貴重な自然として「世界文化遺産」ではなく「国立公園」や「ラムサール条約」による保護の対象となっています。また、釧路付近の気候は稲作には適さず、主に酪農が行われています。
問2	答え 3 石狩川や豊平川の堆積作用によって形成された石狩平野に位置し、地名は先住民族であるアイヌの言葉に由来する。	札幌の市街地は、石狩川の支流である豊平川などが運んだ土砂が積もってきた石狩平野に位置しています。北海道にはアイヌ語を由来とする地名が多く、札幌（サッ・ポロ・ベツ）もその一つです。根釧台地は大規模な酪農、十勝平野は畑作が盛んな地域であり、札幌の位置する地形とは異なります。
問3	答え 2 エコツーリズム	地域の自然環境や文化を損なうことなく、その魅力を観光客に伝える仕組みです。単に観光客を増やして利益を得ることを目的とするのではなく、木道の設置によって植生の破壊を防ぐなど、自然の保全を前提としながら活用を図る点が特徴です。
問4	答え 4 国後島	国後島は、北海道の知床半島の東側に位置する島です。択捉島、色丹島、歯舞群島と合わせて北方領土と呼ばれます。北方領土の中で択捉島に次いで2番目に大きな面積を持ち、根室半島の先に位置する歯舞群島や色丹島などととも、一度も外国の領土になったことがない日本固有の領土ですが、第二次世界大戦の終結直後に当時のソ連によって占拠されました。
問5	答え 2 1戸あたりの耕地面積が非常に広く、大型機械を活用した大規模農業が行われている点	北海道の農業は、明治時代以降の開拓によって農家1戸あたりの経営規模が他の都府県に比べて格段に大きいのが特徴です。広大な十勝平野などを中心に、トラクターなどの大型機械を駆使した大規模な生産体制が整っているため、小麦や大豆などの分野で非常に高い生産割合を維持できています。これに対し、二期作は主に温暖な高知県などの平野部、促成栽培は宮崎県や高知県、段々畑は愛媛県などのミカン栽培などで見られる特徴です。
問6	答え 4 道県名は北海道であり、東京都からの移動距離が長いこと、所要時間の短い航空機が優先的に選択されているから。	東京都から北海道への移動は、距離が非常に長く時間がかかるため、新幹線などの鉄道よりも高速な航空機が選ばれる傾向が顕著です。一般に、交通手段の選択においては「4時間の壁」と呼ばれる基準があり、鉄道（新幹線）での所要時間が4時間を超える場合、航空機のシェアが圧倒的に高くなります。新潟県や大阪府は東京都からの距離が比較的近く、鉄道（新幹線）の利用割合が高い地域であるため、提示された統計データには合致しません。
問7	答え 4 食料品工業	北海道は、広大な農地を活かした大規模な農業や、豊かな漁場を背景とした漁業が非常に盛んです。これらの豊富な農水産資源を加工し、乳製品や水産加工品、砂糖などを製造する工業が発展しているため、工業生産全体に占める割合が全国平均と比べて極めて高いことが特徴です。
問8	答え 1 客土	石狩平野などに広がる泥炭地は、水はけが悪く地盤も軟弱であったため、そのままでは稲作に適しませんでした。そこで、他の場所から肥えた土や粘土質の土を運び込む「客土」という大規模な土地改良が行われました。この努力によって、北海道は日本有数の稲作地帯へと発展しました。干拓は海や湖を仕切って水を出し陸地化すること、輪作は同じ土地で時期をずらして異なる農作物を育てることを指します。
問9	答え 2 道内人口に占める札幌市の割合が一貫して上昇し、札幌市への一極集中が進んでいる。	北海道全体の人口が緩やかな伸び、あるいは横ばい傾向にあるのに対し、札幌市の人口は1960年から2010年の間に約3倍以上という極めて高い伸び率を記録しています。この結果、北海道の総人口に対する札幌市の人口が占める割合は上昇し続けており、特定の都市に人口や経済機能が集中する「一極集中」という地理的特徴が顕著になっています。
問10	答え 1 寒流である千島海流（親潮）によって冷やされた空気が濃霧となり、日射を遮るため。	北海道の太平洋沿岸には寒流の千島海流（親潮）が流れています。夏、この冷たい海面上に南からの暖かく湿った空気が流れ込むと、空気が冷やされて大規模な濃霧が発生します。この霧がカーテンのような役割をして太陽の光を遮るため、沿岸部では日照時間が極端に短くなり、気温が上がらない「夏でも涼しい」気候が形成されます。
問11	答え 3 北海道	北海道は、明治時代以降の開拓という歴史的背景から、京都府や奈良県のような古都と比較して歴史的な建造物の数は少ない傾向にあります。その一方で、広大な土地と豊かな自然環境を活かした国立公園などの自然景勝地や、スキー場・キャンプ場といったレクリエーション施設が非常に多く、自然観光を中心とした独自の産業構造を持っています。
問12	答え 2 日本の国土の約2割を占める広大な面積を持ち、道内の主要都市間を効率的に結ぶ交通手段が必要であるため	北海道は日本の総面積の約22%を占めるほど広大であり、札幌や函館、旭川、釧路といった主要都市間の距離が非常に離れています。そのため、移動時間を短縮し、迅速な物流や人流を確保するために、道内各地に多くの空港が整備されました。また、2016年には北海道新幹線が開通したことで、現在は空路だけでなく、新幹線による陸路での本州との接続も強化されています。